

ユニリーバ・ジャパン 相模原工場

日用品メーカーの英ユニリーバは、2030年までに事業活動でのカーボンニュートラル（温室効果ガス（GHG）排出量実質ゼロ）を掲げる。日本人のユニリーバ・ジャパン（東京都目黒区）はこれを踏まえ、国内の全事業所でグリーン電力証書などを利用して100%再生可能エネルギーを実現するなど計画達成に取り組む。相模原工場（相模原市南区）では23年11月に温水・冷水を同時に

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

⑧

90℃対応 温冷ヒートポンプ



熱回収、エネ費用7%削減

、コンディショナー、水を、冷却時に冷水をボイラーソープなどを使用している。工場製造する。生産工程で原料を溶かすために温

入を決めた。

導入したのは前川製

作所（東京都江東区）

の温水と冷水を同時供

給するヒートポンプ

「ユニモWW」2台。

石川順一相模原工場

ラントエンジニアリン

グスパーバイザー

は、同社製のヒートポ

ンプを選んだ理由につ

いて「装置の大きさと

当工場が必要とする能

力、コストが適してい

た」と話す。

これまでは冷水側で

チラーにて約13度Cの

水を6度Cに冷やした

たチラーの稼働時間も減少。都市ガスと電気料金を合わせてコストを約7%削減できた。

エネルギーのコスト

が上がっていることも

導入の決め手だったと

いう。数カ月稼働した

効果は「想定以上で大

きなトラブルもなかつ

た」（石川氏）。同工

場内で同様の工程を行

う設備にも導入を検討

する予定だ。

（岡紗由美）

（水・金曜日に掲載）

比べ約17%減った。ま

【事業所概要】▽所在地

神奈川県相模原市南区大野台2の14の1、042・

861・8900▽主要生产品

シャンプー、コンディショナー、ボディーソ

ープ▽年間CO₂排出量

非公表